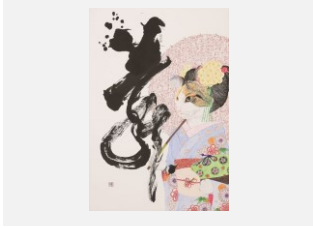
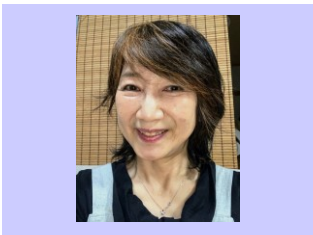


特選

野上恵子(兵庫)
「舞～吾輩は猫である」
墨・顔彩 152cm×119cm



今回の受賞は、私にとって大きな意味を持ちます。書家ながら、子供の頃の夢が画家でしたので非常に嬉しいです。猫と書文字とコラボした猫愛に溢れた作品、書の観点から余白も大事にしています。

**新人賞**

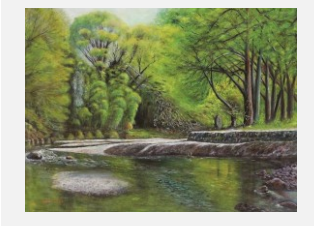
永岡昌子(兵庫)
「幻想の実」
工芸/卵殻、布



この度は栄誉ある新人賞を頂き、ありがとうございます。自分の作品が美術館に飾られるのが夢で、新日本美術展に挑戦しました。これからも卵殻と布を使っているような作品を表現したいと思っています。

**芸術新聞社賞**

花田誠八(埼玉)
「高麗川」
油彩 F80



記念すべき第四五回新日本美術展での「芸術新聞社賞」を頂き誠に有難うございました。新緑の高麗川をいかに表現出来るか格闘しながら描きました。この気持ちを忘れずにこれからも取り組んでいきたい。

**中尾賞**

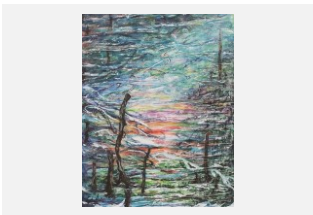
藤本和子(兵庫)
「鮭」
工芸/藤布



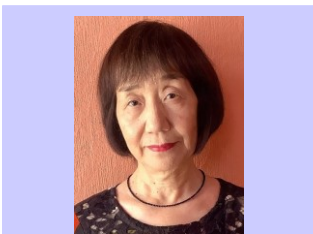
中尾賞を頂き光栄に存じます。永年藤布を織つてよかったです。人に近いぬくもり強さ、やさしさを持った藤布、これからも体力の続くかぎり織りたいと思います。藤蔓が一番好きな木は山桜です。

**小品部門特選賞**

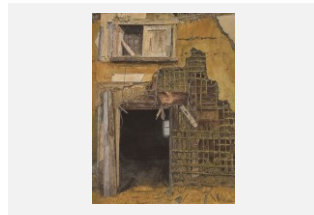
小林英子(千葉)
「水無月」
水彩 P10



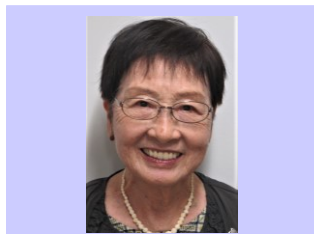
人影の無い梅雨の明け方、池に陽が少しづつ差し込んで来ます。水面が揺れて、反射し始めます。今は行けない旅行だけれど、眺めてきた景色に思いを馳せ、逆にイメージが膨らんで来ました。

**小品部門大賞**

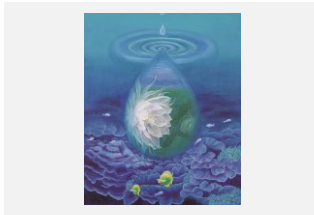
長谷川厚子(埼玉)
「廃屋「土にかえる」」
水彩 P20



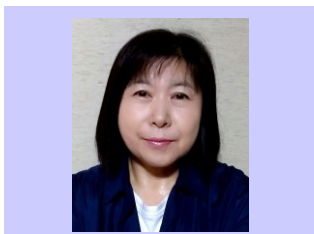
初めて出展して小品部門大賞を頂きとても嬉しいです。よく通る道の奥にある廃屋、時間の経過とともに崩れて形が変わりいづれ大地にかえるのも間近。その一瞬を描いてみようと思いました。

**特選**

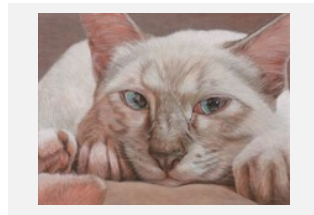
渡邊里美(栃木)
「森と海(しずく)」
油彩 F100



この度は、思いがけず特選を頂きまして、ありがとうございます。これまで描き続けてきて、本当に良かったと嬉しく思います。これを励みに、増々努力していきたいと思えます。

**特選**

長谷川まどか(三重)
「主人を待つ猫」
色鉛筆 F50



この「主人を待つ猫」という作品のモデルの猫は、私の父の事が大好きです。いつも父の帰りを父の椅子に一人静かに座り待っています。そんな猫の日頃の様子を残してみたく、描いてみました。

